

ベトナム 堅調な景気の一方で、
ドン安が懸念材料

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部
 研究員 塚田 雄太
 E-mail : tsukada.yuta@jri.co.jp

10～12月期も成長率は加速した模様

足元でベトナム景気は回復を続けている。実質GDPの3分の2を占める民間消費は、低インフレなどを背景に底堅さを維持している。2016年1～11月の実質小売・サービス消費は前年同期比+7.6%と15年の同+8.3%こそ下回ったものの、例年を上回る伸びとなった(右上図)。ドル建て輸出は、10～11月の伸びが前年同期比+10.0%と7～9月期(同+9.3%)から小幅加速した。品目別にみると、携帯電話・同部品やコンピュータ・電子部品、海産物・同製品が全体を押し上げた。総固定資本形成は、好調な消費や輸出に加え、15年に大幅増加した外資企業による拡張投資の実行なども下支え役となり、堅調に推移している。実際、10～11月のセメント、鉄鋼の生産指数はそれぞれ前年同期比+10.8%、+13.0%と高い伸びとなっているほか、機械・部品輸入、鉄鋼輸入も+13.2%、+35.9%と7～9月期から大幅増となった(右中央図)。

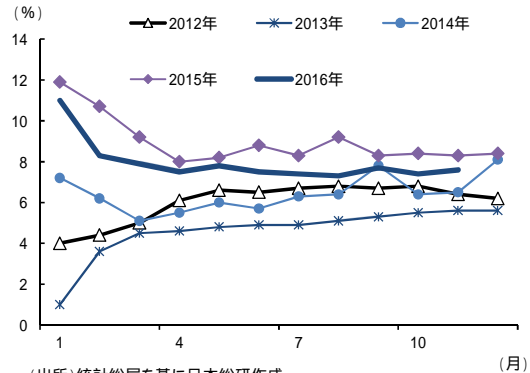
こうした動きは12月入り後も持続しているとみられ、10～12月期の成長率は7～9月期から加速した可能性が高い。

米大統領選後にドン安が進行

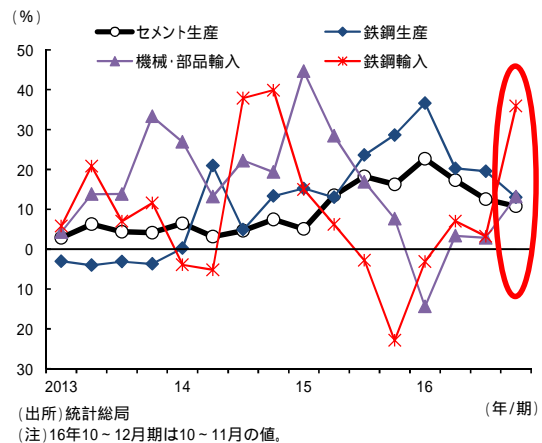
17年入り後も、比較的低水準のインフレ率を受けた民間消費の堅調推移や米国景気の一団の回復に伴う輸出の拡大が追い風となり、ベトナム景気は他のアジア新興国対比では高めの成長を続けると予想される。

とはいえ、景気の先行きにはいくつかの下振れリスクがあるため、楽観視はできない。とりわけ、米国大統領選以降のドン安進行が大きな懸念材料となっている(右下図)。ベトナムドンは11月8日から12月7日の1カ月で1.6%のドル高ドン安となった。ドン安が加速すると、輸入インフレやそれに対応するための金融引き締めを招来し、民間消費や投資を下押ししかねない。また、市場ではトランプ新政権による政策次第では、17年以降の米国の利上げペースが早まるとの見方も浮上しており、今後の為替動向を注意深く見守っておく必要がある。

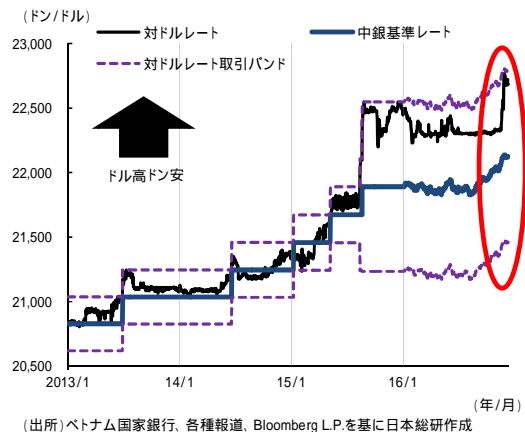
<実質小売・サービス消費の推移>



<各種投資関連指標>



<ドンの対ドルレート>



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。